

学会参加レポート

NASPSPA 2015 CONFERENCE (北米スポーツ運動心理学会) に 参加して

藤本 愛子¹

2015年、6月4日～7日にアメリカオレゴン州、ポートランドで開催された NASPSPA (NORTH AMERICAN SOCIETY FOR THE PSYCHOLOGY OF SPORT AND PSYCHICAL ACTIVITY; 北米スポーツ運動心理学会) にて、自身の発表を兼ねて参加した。

発表は Effects of breathing patterns and the relationship between speed and accuracy. というタイトルで、運動パフォーマンス中の呼吸と発声が、速さと正確性に及ぼした影響について検討を行ったという内容であった。

本学会は、ポートランドのダウンタウンにある Hilton Portland & Executive Tower にて開催された。

この街は Nike や Columbia Sportswear の本社があることで有名で、そのことも関係しているのか、平坦で川沿いに位置する街の土地柄なのか、朝、ホテルから学会の場所まで向かう間に、ランニングをしている住民を多く見掛けた。



発表は二日目から始まり、朝のシンポジウムやお昼のランチミーティング、キーノートやレクチャーなどが一通り開催された。

発表では脳科学や医療的な分野などの、日本の学会では見られないような一歩踏み込んだ研究も多く、ここから日本にも広がっていくのだろうと思うと専門外の研究でも興味深く見聞きすることができた。

しかし、今回はアメリカ西海岸での開催ということで、日本からは比較的参加しやすい場所であったにも関わらず、日本人の参加者が少なかったことは残念に



思う。

三日目には学生の有志によって開催されるスチューデントミーティングが行われたが、発表でも大学院生による発表がとて多く、学生が積極的であることを感じたのが今回の学会の特徴であった。私の発表の際も、イリノイ州の大学院に通う日本人の学生の方にご質問いただき、海外での大学院生活についてのお話をお聞きすることができた。

また、スポーツ心理学が女性の進出しやすい分野であることも関係しているのか、女性の参加者が日本の学会よりもはるかに多いことに驚いた。ポスターはもちろん、口頭発表者も女性が多く、女性研究者がまだまだ少ない日本との違いを感じた。

バラの街としても有名なこの街では、学会の開催に合わせたようにローズフェスティバルの100周年記念が開催されており、チアダンサーや政治家、馬車、音楽隊などの数えきれない程の団体が何時間にも渡ってダウンタウンの端から端までを行進していた。学会



1 同志社大学スポーツ健康科学研究科博士後期課程 (Graduate school of Health and Sports Science, Doshisha University)



会場であるヒルトンホテルはそのちょうど通り道であったため、会場の屋内からもパレードの様子を見ることができ、国内ではおそらく経験することがないであろう、街中が楽しい雰囲気に包まれた中で学会となった。

最終日のプログラムに **dinner & dancing** と記載があり、私は **dancing** に疑問を感じながらも日本人の先生方と一緒にテーブルにつき、食事や会話を楽しんだ。院生は私だけであったが、先生方からは他大学のシステムや研究、今までに発表をされた国際学会のことなど、貴重なお話をたくさんお聞きすることができた。



しばらくすると男女のペアによるダンスが始まり、1曲終わったところで司会者の方が参加者に向けて、「一緒に前に出て踊りましょう」と呼びかけた。するとすぐにステージは人でいっぱいになり、音楽に合わせて参加者達が先生も学生も関係なく自由に踊り始め、日本からの参加者である私達はただ驚くばかりであった。そうして日本の学会では経験できないような賑やかな雰囲気に包まれ、NASPSPA は幕を閉じた。



今回 NASPSPA に参加してたくさんの貴重な経験を得られたことは、偏に国際学会における旅費の高額な補助をいただいた同志社大学と、丁寧にご指導いただいた石倉先生のおかげであり、他の大学では受けられなかったであろうたくさんの恩恵を享受して感謝してもしきれない程です。おそらく自分の力だけでは、初めての国際学会での発表、しかも初めての海外という私にとっての大きな関門を突破することは難しかったと思います。この経験と受けた恩恵を無駄にしないよう、これからも研究に励み、たくさんの知識を得て、スポーツの現場に還元することで恩返しをしていきたいと思っています。